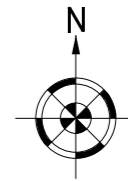


66 徳次郎宿～大沢宿
 栃木県宇都宮市 栃木県日光市
 上徳次郎～大沢宿
 (歩行距離 3149m 40分)
 歩く地図でたどる日光街道
<http://nikko-kaido.jp/>
 JZE00512@nifty.ne.jp



杉並木の店



第四接合井



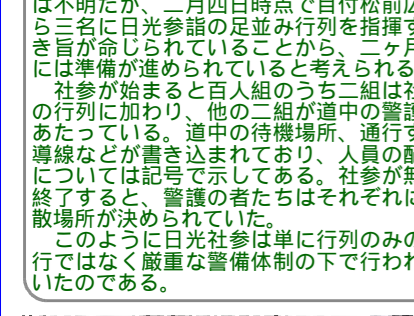
coffee time
社参における行列と警護

行列の目的は武威を示すと同時に、將軍を守護する警備体制にあるといわれています。社参の行列とは別に、各所にも警備体制が敷かれています。日光山や道中の宿場を警護する場合、社参より数日前に江戸を立ち、先着して現地に入り体制を整える必要がある。このように社参の背景にはさまざまな警護の体制があるが、ここでは一例として、天保の社参において家康の警護を行う百人組(鉄砲百人組)の配置・進行の計画を描いた一連の絵巻が筑波大学付属図書館に残されているので、そのころ警護の様子を概観してみたい。

百人組とは平時には江戸城の大手三門の警護を主業務とした組織である。構成は甲賀・根来・大久保・青山の四組から成り、各組に一名ずつの組頭と20～25名の与力、百名の同心が所属していた。百人組は日光社参においても警護役を勤めており、このときの組頭はいずれも知行高五千石から七千石の旗本である諏訪頼保(すわよりやす)・斎藤利伊(さいとうとしこれ)・土岐朝昌(とぎともまさ)・花房正理(はなぶさまさはる)の四名である。この四組が交代で道中の警護にあたる。日光御参詣行列書によれば、社参が実施される前月の3月2日には江戸城内で百人組を含む警護の者が行進の予行演習である足並み稽古を行っている。この稽古は竹橋門内で行われ、將軍家慶も上覧している。さらに同月18日にも規模を拡大して行われている。この稽古がどの程度前から開始されるのかは不明だが、二月四日時点で目付松原広隆は三名に日光参詣の足並み行列を指揮すべき旨が命じられていることから、二ヶ月前には準備が進められていると考えられる。

社参が始まると百人組のうち二組は社参の行列に加わり、他の二組が道中の警護にあたる。道中の待機場所、通行する導線などが書き込まれており、人員の配置については記号で示してある。社参が無事終了すると、警護の者たちはそれぞれ解散場所が決められていた。

このように日光社参は単に行列のみの通行ではなく厳重な警備体制の下で行われていたのである。



上小池の一里塚



新渡神社

31 上小池一里塚
 日本橋から31里の一里塚。西の塚は直径約3m、高さ約1.8m。東の塚は開田のため破壊され痕跡がない。江戸時代には松が植えられていた。民家の前のこもりとした所で案内板も。

接号井
 宇都宮市の水道は、大正5年にはじまりました。その時は、水を今市市から引いてきたので、途中で水の力を調整する場所が必要になったのです。接合井です。今では使われていませんが、大変貴重な建物です。他にも3ヶ所あり、一部現在も利用されています。

桜中心の並木だが、江戸時代は松並木であった。

ここから男体山がよく見える

coffee time
第21回御神忌法会(ごしんきほうえ)
 祖父家康の第21回御神忌の祭祀を執行するため、家光は寛永13年(1636)4月13日に江戸城を出発し、日光へ向かった。初日は岩槻に、翌14日は古河に、15日は宇都宮に、16日は今市に宿泊した。

17日の早朝、今市を出発して日光に到着し、辰刻(午前8時)より棧敷で東照社祭礼(延年舞えんねのまい・神輿みこし渡御・獅子田楽など)を見学したあと、本坊御殿に還り束帯に改めて、豪華壮麗に建て替えられた日光東照社に参詣し、神前に太刀・馬・幣帛(へいはく)神前に供するものうち、神饌しんせん以外の総称)を献じた。寛永大造替で將軍が着座する空間を創出した家光は、新造の拝殿に着座した。

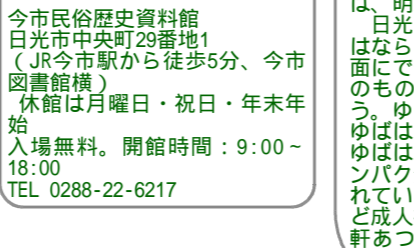
翌18日は勅会(ちよくえ)天皇の御願により、その発する勅を法源とし、勅使が参向して執行される祭礼)として御経供養(東照大権現に奉納された明正天皇宸筆による祭裏御贈経、および仙洞=後水尾上皇・国母=東福門院の贈経を真読し、供養する法会)、法華曼荼羅供(ぼくけまんだらく)が行われ、家光は内陣に参り太刀を献じて奉幣し、神酒を頂戴して一度退いた。その後天海大僧正の先導により家光は再び内陣に入り、自ら「東照社縁起」上巻を奉納した。

新渡神社(にわたりじんじゃ)
 この神社の御神体は石の不動尊で、境内には、大杉・稲荷の2社がある。近くに一里塚があることから、江戸時代の旅人はこの境内でも疲れをいやした。

うらない地蔵
 大谷石でできた石仏のため風化が激しい、享保15年(1730)の銘がある阿弥陀像。この石仏に願をかけ3個のまんじゅう型の石のいすれかを持ち上げ、軽く感じれば願いが叶うといわれている。

coffee time
杉並木のことを知りたいときは歴史民俗資料館へ
 日光杉並木に関する資料の展示を中心としているので、別名「杉並木資料館」と呼ばれている。館内では杉並木の研究に一生を捧げた、故鈴木丙馬博士の研究資料や、郷土の生んだ交通史研究の第一人者として知られた故大島延次郎博士収集による交通史資料や著作などが展示され、とくに「日光道中図絵」を見ながら、昔の今市宿と現在の町の姿をみくらべてみるのも興味があがる。

今市民俗歴史資料館
 日光市中央町29番地1
 (JR今市駅から徒歩5分、今市図書館横)
 休館日は月曜日・祝日・年末年始
 入場無料。開館時間：9:00～18:00
 TEL 0288-22-6217



coffee time
日光名物湯波
 日光のゆばの歴史は勝道上人が日光山を開いたときにさかのぼるといわれる。当時の日光山には数百の坊が建ち並び、万余人の僧や修験者たちがあつまっていた。修験者たちの食事は精進が要求されており、寒冷な日光では冬の間、魚介類は手に入らず淡泊源は大豆に頼るばかりはなかった。修験者たちは山岳原野を旅するにあたり軽量で保存がきき、栄養にすぐれた食品として黄粉、ゆばを利用したという。

その後、鎌倉時代に精進料理が流行しはじめ、公家や武士、町人にも徐々に広がっていった。日光では社寺の保護を受け、御用湯波所としてつくられていた。一般の人が食べられるようになったのは、徳川家康が日光に祀られてからで、東照宮への参詣をきっかけに食事にゆばがだされるようになったのである。一般人の人に販売が許可されたのは、明示になってからだといわれている。

日光ではお正月のおせち料理の一品としてなくてはならないものである。ゆばは豆乳を煮たとき表面にできる薄い膜を引き上げたもので、乾燥する前のもが生ゆばで乾燥させたものを干しゆばという。ゆばを漢字で書くと、京ゆばは「湯葉」、日光ゆばは「湯波」と書く。京ゆばは一枚仕上げ、日光ゆばは二枚仕上げである。ゆばは大豆の良質のタンパク質と脂肪を多く含みカルシウム、鉄分も含まれている。また、レシチンも含まれ、動脈硬化症など成人病予防にも効果があるとされている。十数軒あつた日光のゆば屋も現在では下鉢石町にある「ふじや」「海老屋」の二軒だけとなっている。

coffee time
今市線香の歴史
 今市の線香業は、越後国(新潟県)三島郡片貝村出身の安達繁七(天保12年～明治33年)によって開始された。その創業は文久元年(1861)年と伝えられている。安達工場は明治30年頃が最盛期で、建物12棟、職人50名に達したという。明治33年に工場を閉鎖するが、長年にわたり養成されたこれら熟練の職人達が随所に就業するに及んで、今市の線香業は新たな発展を迎える。今市で生産される線香には、杉線香と匂線香がある。杉線香と匂線香のあいだには、生産量の面で大きな差はないが、出荷額に占める杉線香の割合は、全体の20%弱にすぎない。これら今市産の線香は、東京を中心に出荷されるが、関東・東北地方が主要な流通区域である。

coffee time
日光東照宮の誕生
 元和2年(1616)4月17日、徳川家康は駿府城で75歳の生涯を終え、遺骸はその日の夜久能山へ移された。家康の葬送は、小雨の降る中肅然と執り行われた。天海僧正主導により山王一実神道に則って神(東照大権現)として祀られることになった家康は、なぜ一周忌に日光山へ遷座されたのか。東照社勧請の直接の契機は、死の直前に家康が自ら述べた遺言によるものであるが、日光が選ばれた理由として、従来からいくつかの説があげられている。

1. 日光山は関東において古くから開かれた山岳信仰の霊場であった。
 2. 徳川家康が崇拜し、また徳川家の祖先でもある源頼朝が日光山を篤く信仰していた。
 3. 家康が信任する天海が日光山の貫主であった。
 4. 日光山は関東と東北の境である下野に位置し、東北の押さえとしても意義をもっていた。
 5. 戦術的には日光山は西国から遠く、戦術的にも要塞の地である。
 6. 日光山は江戸のほぼ真北に位置し、宇宙を主宰する神の宮殿としてふさわしい最良の地である。

このように、日光山は西国から遠く、戦術的にも要塞の地である。家康の日光山への改葬は、藤原氏の始祖である大織冠藤原鎌足の先例を踏襲したものとする説が見える。

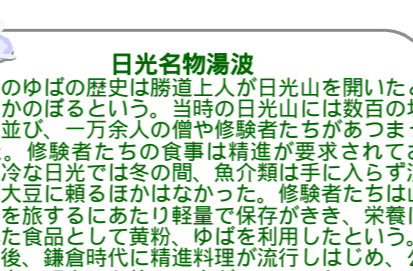
慶長18年(1613)、家康は天海を日光山の貫主に任じた。おそらくこの時点で家康は聖地日光山を江戸幕府にとって重要な宗教上の地として決意したのではないかとと思われる。

coffee time
大沢地区の地名
 日光連山から流れ出る大谷川・田川・赤堀川によって今市扇状地が形成された。水の流れのいくつかが伏流水となり、いくつかが台地を浸食し凸凹を形成した。大沢は今市扇状地の扇端部に位置する。日光の山々に降った雨水はこの地のいたるところで豊富な湧水となって湧き出し、沢をつくり細い小川をつくった。その成り立ちによって地名が付けられた。谷地は「沢」や「瀬」は、大沢、薄井沢、荊沢、土沢がある。

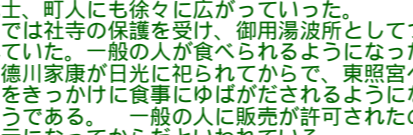
山林にかこまれたような大地は「室」で、大室、根室(古くは根本)。
 山地への入口は「口」で山口(日光山への入口という特別なもの)。
 浸食地には「割(く)る」・「崩ゆ」から「倉」へと変化して、猪倉(猪は「井」であり川をさす)。
 川の挟まれたところを「島」で木和田島(築きはた樹が多く残っていたとも)

coffee time
水羊羹
 湯波と並んで水羊羹は日光の特産品の一つとなっている。歴史はいがいと古く、昔は日光の各店舗も冬しか製造してなかった。近年になって冷蔵技術の発達で、よりみずみずしい美味しさを通年味わえるようになった。日光水羊羹の決め手は水にある。日光連山の清らかな水をたっぷり使った水羊羹はそのさっぱりとした美味しさを楽しめる。

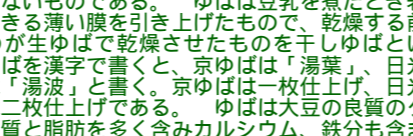
coffee time
ヒメマス
 ヒメマスはサケ科の淡水魚で、中禅寺湖では全国1の出荷を誇ります。赤身で口の中にとろける食感が人気で「バター焼き」、「刺身」などの料理が特に人気です。そもそも奥日光といえは釣り(フライ/ルアーフィッシング)の発祥といわれています。日光は日本における釣りの聖地で、ヒメマス、ホンス、ブラウンマス、ニジマス、レイクトラウト、カワマス、ワカサギなどの釣りを楽しめ、多くの魚が生息しています。



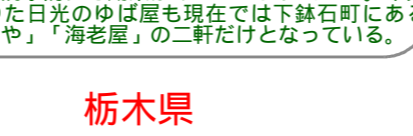
上小池の一里塚



上小池の一里塚



上小池の一里塚



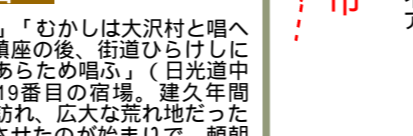
上小池の一里塚



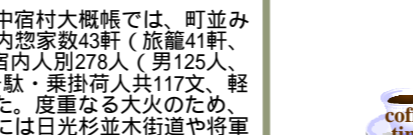
上小池の一里塚



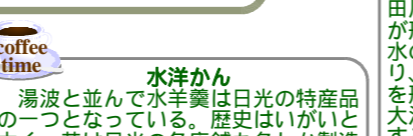
上小池の一里塚



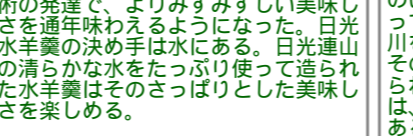
上小池の一里塚



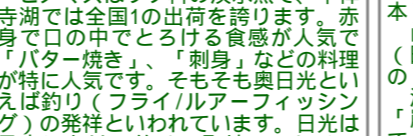
上小池の一里塚



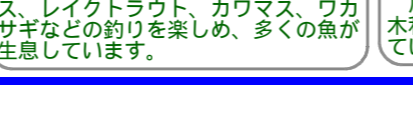
上小池の一里塚



上小池の一里塚



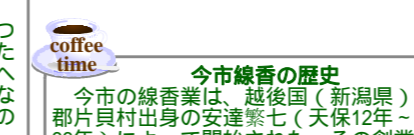
上小池の一里塚



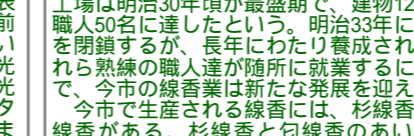
上小池の一里塚



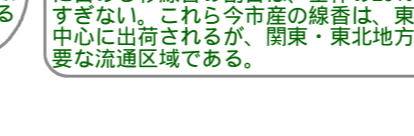
上小池の一里塚



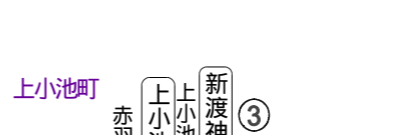
上小池の一里塚



上小池の一里塚



上小池の一里塚



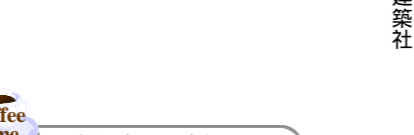
上小池の一里塚



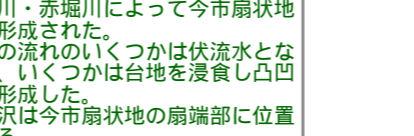
上小池の一里塚



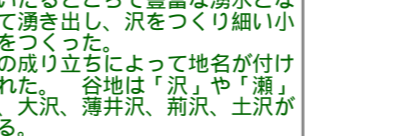
上小池の一里塚



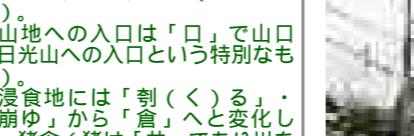
上小池の一里塚



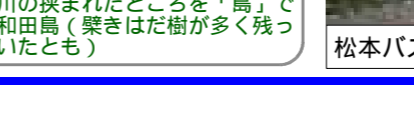
上小池の一里塚



上小池の一里塚



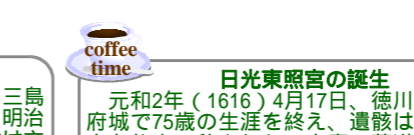
上小池の一里塚



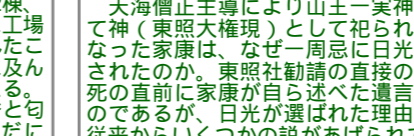
上小池の一里塚



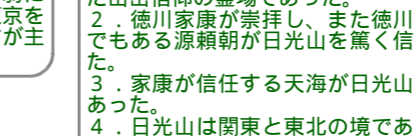
上小池の一里塚



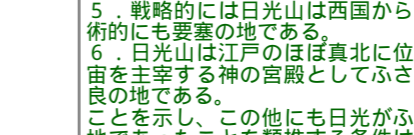
上小池の一里塚



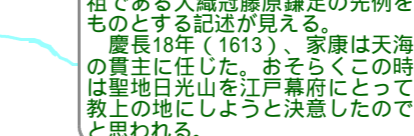
上小池の一里塚



上小池の一里塚



上小池の一里塚



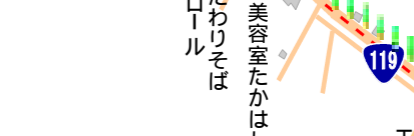
上小池の一里塚



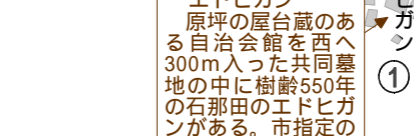
上小池の一里塚



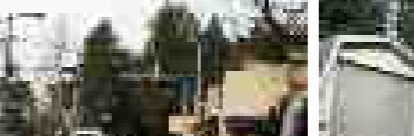
上小池の一里塚



上小池の一里塚



上小池の一里塚



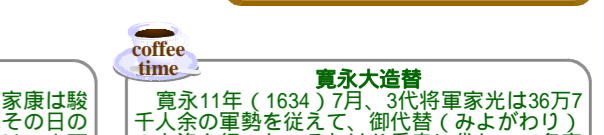
上小池の一里塚



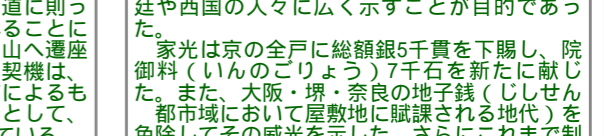
上小池の一里塚



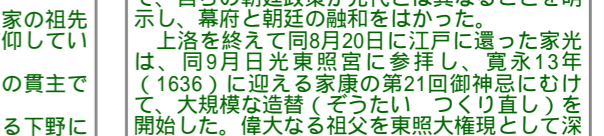
上小池の一里塚



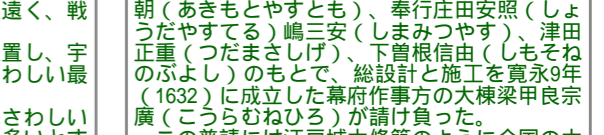
上小池の一里塚



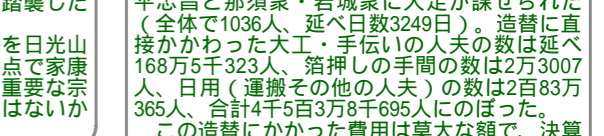
上小池の一里塚



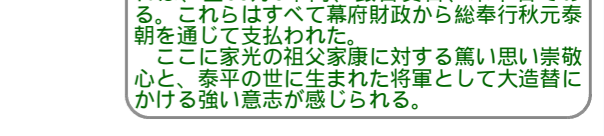
上小池の一里塚



上小池の一里塚



上小池の一里塚



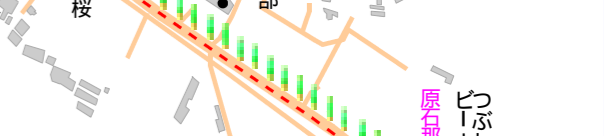
上小池の一里塚



上小池の一里塚



上小池の一里塚



上小池の一里塚



上小池の一里塚



上小池の一里塚

coffee time
大沢地区の地名
 日光連山から流れ出る大谷川・田川・赤堀川によって今市扇状地が形成された。水の流れのいくつかが伏流水となり、いくつかが台地を浸食し凸凹を形成した。大沢は今市扇状地の扇端部に位置する。日光の山々に降った雨水はこの地のいたるところで豊富な湧水となって湧き出し、沢をつくり細い小川をつくった。その成り立ちによって地名が付けられた。谷地は「沢」や「瀬」は、大沢、薄井沢、荊沢、土沢がある。

山林にかこまれたような大地は「室」で、大室、根室(古くは根本)。
 山地への入口は「口」で山口(日光山への入口という特別なもの)。
 浸食地には「割(く)る」・「崩ゆ」から「倉」へと変化して、猪倉(猪は「井」であり川をさす)。
 川の挟まれたところを「島」で木和田島(築きはた樹が多く残っていたとも)

coffee time
水羊羹
 湯波と並んで水羊羹は日光の特産品の一つとなっている。歴史はいがいと古く、昔は日光の各店舗も冬しか製造してなかった。近年になって冷蔵技術の発達で、よりみずみずしい美味しさを通年味わえるようになった。日光水羊羹の決め手は水にある。日光連山の清らかな水をたっぷり使った水羊羹はそのさっぱりとした美味しさを楽しめる。

coffee time
ヒメマス
 ヒメマスはサケ科の淡水魚で、中禅寺湖では全国1の出荷を誇ります。赤身で口の中にとろける食感が人気で「バター焼き」、「刺身」などの料理が特に人気です。そもそも奥日光といえは釣り(フライ/ルアーフィッシング)の発祥といわれています。日光は日本における釣りの聖地で、ヒメマス、ホンス、ブラウンマス、ニジマス、レイクトラウト、カワマス、ワカサギなどの釣りを楽しめ、多くの魚が生息しています。

coffee time
大沢地区の地名
 日光連山から流れ出る大谷川・田川・赤堀川によって今市扇状地が形成された。水の流れのいくつかが伏流水となり、いくつかが台地を浸食し凸凹を形成した。大沢は今市扇状地の扇端部に位置する。日光の山々に降った雨水はこの地のいたるところで豊富な湧水となって湧き出し、沢をつくり細い小川をつくった。その成り立ちによって地名が付けられた。谷地は「沢」や「瀬」は、大沢、薄井沢、荊沢、土沢がある。

山林にかこまれたような大地は「室」で、大室、根室(古くは根本)。
 山地への入口は「口」で山口(日光山への入口という特別なもの)。
 浸食地には「割(く)る」・「崩ゆ」から「倉」へと変化して、猪倉(猪は「井」であり川をさす)。
 川の挟まれたところを「島」で木和田島(築きはた樹が多く残っていたとも)

coffee time
水羊羹
 湯波と並んで水羊羹は日光の特産品の一つとなっている。歴史はいがいと古く、昔は日光の各店舗も冬しか製造してなかった。近年になって冷蔵技術の発達で、よりみずみずしい美味しさを通年味わえるようになった。日光水羊羹の決め手は水にある。日光連山の清らかな水をたっぷり使った水羊羹はそのさっぱりとした美味しさを楽しめる。

coffee time
ヒメマス
 ヒメマスはサケ科の淡水魚で、中禅寺湖では全国1の出荷を誇ります。赤身で口の中にとろける食感が人気で「バター焼き」、「刺身」などの料理が特に人気です。そもそも奥日光といえは釣り(フライ/ルアーフィッシング)の発祥といわれています。日光は日本における釣りの聖地で、ヒメマス、ホンス、ブラウンマス、ニジマス、レイクトラウト、カワマス、ワカサギなどの釣りを楽しめ、多くの魚が生息しています。

coffee time
大沢地区の地名
 日光連山から流れ出る大谷川・田川・赤堀川によって今市扇状地が形成された。水の流れのいくつかが伏流水となり、いくつかが台地を浸食し凸凹を形成した。大沢は今市扇状地の扇端部に位置する。日光の山々に降った雨水はこの地のいたるところで豊富な湧水となって湧き出し、沢をつくり細い小川をつくった。その成り立ちによって地名が付けられた。谷地は「沢」や「瀬」は、大沢、薄井沢、荊沢、土沢がある。

山林にかこまれたような大地は「室」で、大室、根室(古くは根本)。
 山地への入口は「口」で山口(日光山への入口という特別なもの)。
 浸食地には「割(く)る」・「崩ゆ」から「倉」へと変化して、猪倉(猪は「井」であり川をさす)。
 川の挟まれたところを「島」で木和田島(築きはた樹が多く残っていたとも)

coffee time
水羊羹
 湯波と並んで水羊羹は日光の特産品の一つとなっている。歴史はいがいと古く、昔は日光の各店舗も冬しか製造してなかった。近年になって冷蔵技術の発達で、よりみずみずしい美味しさを通年味わえるようになった。日光水羊羹の決め手は水にある。日光連山の清らかな水をたっぷり使った水羊羹はそのさっぱりとした美味しさを楽しめる。

coffee time
ヒメマス
 ヒメマスはサケ科の淡水魚で、中禅寺湖では全国1の出荷を誇ります。赤身で口の中にとろける食感が人気で「バター焼き」、「刺身」などの料理が特に人気です。そもそも奥日光といえは釣り(フライ/ルアーフィッシング)の発祥といわれています。日光は日本における釣りの聖地で、ヒメマス、ホンス、ブラウンマス、ニジマス、レイクトラウト、カワマス、ワカサギなどの釣りを楽しめ、多くの魚が生息しています。

coffee time
大沢地区の地名
 日光連山から流れ出る大谷川・田川・赤堀川によって今市扇状地が形成された。水の流れのいくつかが伏流水となり、いくつかが台地を浸食し凸凹を形成した。大沢は今市扇状地の扇端部に位置する。日光の山々に降った雨水はこの地のいたるところで豊富な湧水となって湧き出し、沢をつくり細い小川をつくった。その成り立ちによって地名が付けられた。谷地は「沢」や「瀬」は、大沢、薄井沢、荊沢、土沢がある。

山林にかこまれたような大地は「室」で、大室、根室(古くは根本)。
 山地への入口は「口」で山口(日光山への入口という特別なもの)。
 浸食地には「割(く)る」・「崩ゆ」から「倉」へと変化して、猪倉(猪は「井」であり川をさす)。
 川の挟まれたところを「島」で木和田島(築きはた樹が多く残っていたとも)

coffee time
水羊羹
 湯波と並んで水羊羹は日光の特産品の一つとなっている。歴史はいがいと古く、昔は日光の各店舗も冬しか製造してなかった。近年になって冷蔵技術の発達で、よりみずみずしい美味しさを通年味わえるようになった。日光水羊羹の決め手は水にある。日光連山の清らかな水をたっぷり使った水羊羹はそのさっぱりとした美味しさを楽しめる。

